

半導体漫遊記

④2

湯之上隆

今年も真夏の沖縄で潜りたい！春先にそう決心して、8月3日、8日の予定で、沖縄の慶良間諸島の一つ、阿嘉島にダイビング旅行に出掛けた。

かな海と自然。余計なものはない。人口たった340人の小さな

足に夏休みを取ること良間で最も有名なダイビングスポット、北浜（ニシバマ）。なぜか付近に到達すると、完全に白と青の世界。どこまでも続く白い砂地の中にポツンと「アザハタの根」がある。それは直径5m程度の岩

はうようにして水深を下げていく。水深25m（ニシバマ）。なぜか付近に到達すると、完全に白と青の世界。どこまでも続く白い砂地の中にポツンと「アザハタの根」がある。それは直径5m程度の岩

沖縄・阿嘉島でダイビング

アザハタの存在感

私がダイビングを始めたのは1988年。

それ以降、伊豆半島を皮切りに、沖縄の数ある離島、東南アジアの島々を潜りまくった。

潜水本数は2000本を超えた（途中から分からなくなった）。そして、いつの間にか阿嘉島が最もお気に入りになった。

素朴な島の人々、豊

な島に、何度も何度も潜りに出掛けているうちに、何となく「第二の故郷」のような思いを抱くようになった。

くって何が人生だ！と考へ、今年から「何がもうお気に入りのポイント」を取ることにした。

私たちが最礁なのだが、キンメ、スカシテンジクの群れ、ノコギリダイ、ヨスジフエダイの幼魚、ホワイソックスなどのエビなど、信じられないほどたくさん生き物たちが群れている。

子が違う。この根の主である2匹のアザハタがいないのである。ダイビングサーブिसのつもなら、ダイバーにオーナーの話によれば、6月13日にまずオ



北浜（ニシバマ）のアザハタの根とその主のアザハタペア

日にメスもいなくなつたという。考えられることとしては、釣り客に釣り上げられてしまった可能性が高い。（阿嘉島など慶良間諸島には釣り客も多い。いなくなつて初めてその存在感の大きさに気付いた。あの根にとって2匹のアザハタは守り神のような存在だったのだ。魚を釣つてはいけないという法律はない。しかし、慶良間のもっとも有名なスポットの象徴的な魚を釣ることはないじゃないか！以前から感じていたことだが、ダイバーは（少なくとも私は）、釣り人と友人になることはできそうもない。（半導体技術者・社会学者）